





シカ防護柵の設置作業



間伐区域内のプロット調査



間伐実施後の森林内



間伐作業

また、森林環境教育の一環として、令和5年から、綾プロエリア内の母樹となるシイ・カシ類等の種子（どんぐり）を採取し、小中学校で苗を数年間育てた後に、伐採跡地等へ植栽する取組も進めています。

間伐、シカ防護柵の設置などの復元作業の一部については、平成18年から、企業、学生、NPO、綾町民等のボランティアの協力により取り組んでいます。

## （2）地域の方々との連携・協力による取組の推進

復元にあたって、周辺の母樹から散布された種子の発芽や稚樹の生育を促すため、人工林を間伐し、光環境の改善を図ってきましたが、光環境が不足し種子の発芽に至らないことや、近年のシカ増加により稚樹が食害されることが分かってきました。このため今後は、主伐を含めた面的な伐採による復元方法の検討※や、シカ防護柵の設置、シカ個体数の減少を図ることとしています。

※ 光環境の改善を目的に「点」や「線」ではなく「面」を単位とした伐採方法。伐採幅や面積に上限を設け計画的な伐採を検討。



大きく育ったどんぐりの苗



どんぐりをプランターにまく

## 綾プロ20周年

令和8年1月24日に、綾町公民館文化ホールで20周年記念報告会を開催しました。綾町内外から約200名の参加があり、これまでの取組における成果と課題の報告、ネイチャーボジティブ※に関する基調講演や、「未来へつなぐ綾の森づくりのためにできること」をテーマとしたパネルディスカッション等を行いました。

また、翌25日には、「照葉樹林ウォーク」と題して、照葉樹林の復元の過程を見るイベントを開催しました。県外からを含む約30名



照葉樹林ウォークイベント



関係者によるパネルディスカッション

## おわりに

綾の照葉樹林は、多くの日本固有の生き物が生息する世界的にも貴重な財産です。後世に継承されるよう、また、地域の振興・発展に繋がるよう、取組の成果と課題を検証し、今後とも引き続き関係者と連携して保護・復元を進めていきます。

※ 生物多様性の損失を止めて回復させること